

目標（5）

心たくましく健やかに育つ 教育環境をつくります



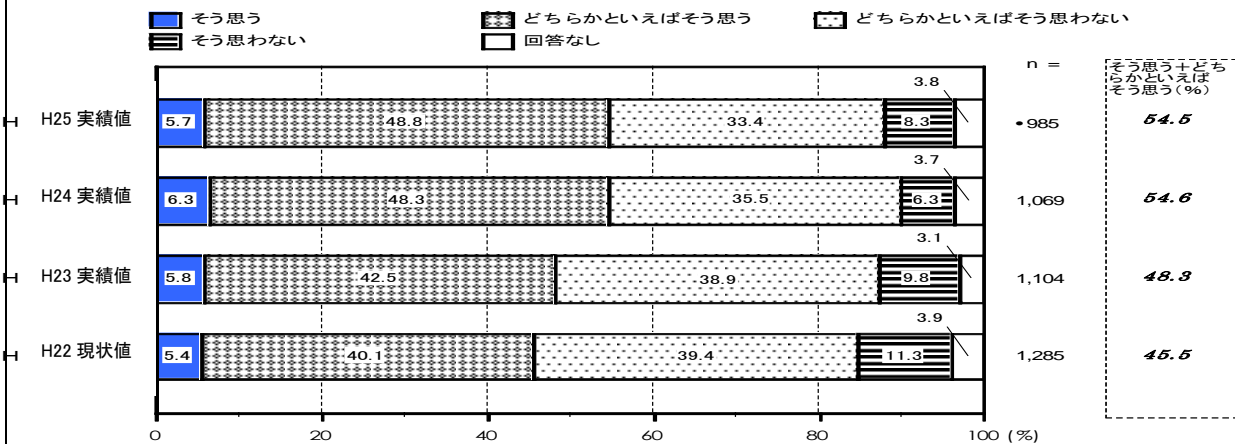
▲小学校の授業の様子

I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿	
目標達成に向けての考え方	次世代を担う子どもを心身ともに健やかに育むために、家庭・地域・学校の連携を強化し、みんなで育てる環境をつくっていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 子どもが心身ともに健康で、夢や希望を持ち、毎日が楽しいと感じています。 ◇ 確かな学力と生きる力が育まれ、一人ひとりの個性が伸びています。 ◇ 教師、家庭だけでなく、地域の様々な人が子どもと関わっています。 ◇ 高浜市の特性に合った教育環境が整っています。 ◇ 子どもが地域活動に主体的に参画しています。

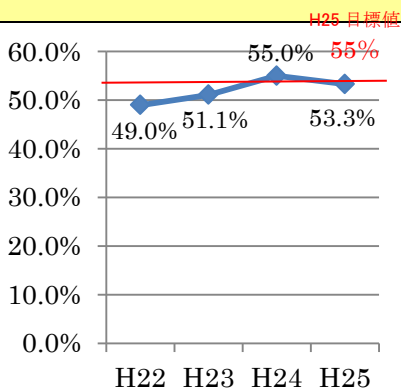
2. 市民意識調査結果

【設問】心たくましく健やかに育つ教育環境が整っているまちだと思う

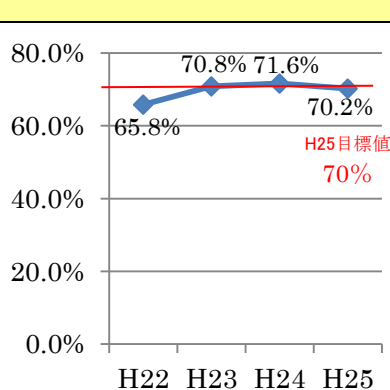


3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

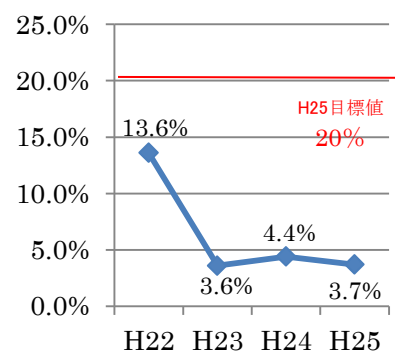
1) 毎日をととても楽しいと感じている子どもの割合



2) 学習に積極的に取り組む子どもの割合



3) 過去1年間に地域行事、ボランティア活動に参画した子どもの割合



4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）

- ◆「指標1」は、「どちらと言えば楽しい」まで含めば93%を越えている。今後もこのレベルを維持していくことが重要である。子どもが抱く不安材料を追究し、減少していかなければならない。
- ◆「指標2」は、子どもの学習意欲を引き出す授業力の向上が、効果を上げつつある。学年が上がると、学習内容の難しさから意欲の低下が見られるため、少しでも引き上げていくことが課題である。また、子どもの思考・追究の連続性に即さない「出前授業」が授業時間を圧迫しないよう、本来確保すべき授業時間数、子どもの学びの保障のためにさらに調整を図る必要がある。
- ◆「指標3」については、「参加」の裾野は着実に拡大している。「参画」となると、子どもを参画させるための働きかけ・啓発が課題である。
- ◆「市民意識調査結果」について、市民がイメージする「教育環境」は「施設整備」の面が強い。現在推進する「幼保・小・中の縦の連携」「学校・地域・家庭の横の連携」が教育環境整備であることを市民に理解していただくことが重要である。

II. 目標達成のための主な取組み

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
★高浜市の教育のあり方を示し、教育施策を総合的に進めていくための指針として、「高浜市教育基本構想」を策定します。	①市民・教員・市職員の協働による「教育基本構想策定委員会」において「高浜市教育基本構想」を策定した。	H23.12
	②教育基本構想推進の各委員会・部会を立ち上げ、「高浜カリキュラム」「幼保小中の連携」「学校防災」等に取り組んだ。	H24.4～ H26.3
☆子どもの学力、体力、心の成長と、教師力の向上を目指し、幼保小中が一貫した高浜市独自の教育カリキュラムについて研究します。	①「高浜カリキュラム」策定委員会を立ち上げ、「生活・総合的な学習の時間」の全体計画案を作成した。	H24.4 ～H25.3
	②小3を対象に「福祉」領域の実践を開始した。	H25.4～
	③年少「保育」、小4「環境」、中1（キャリア教育）について、平成26年度開始に向けた検討・準備を行った。	H25.4 ～H26.3
☆家庭の教育力を高めるために、学習機会と啓発活動を充実します。	①「異校種連携推進委員会」にて、幼稚園・保育園、小学校、中学校卒業までに身につけさせたい生活習慣や学習習慣（めざす子ども像）を検討し、明文化する方針を決定した。	H25.4 ～H26.3
☆子どもが主体となって地域活動に参画できる環境をつくり、家庭・地域・学校との交流を活性化します。	①「学校支援ボランティア推進部会」（※H25より「教育支援活動調整委員会」）を立ち上げ、学校の想いと地域の想いを調整する仕組みを確立した。	H25.4 ～H26.3
☆幼保小中一貫教育を視野に入れて、地域の総合的な教育環境の向上に努めます。	※「こんなことに取り組みます！」の3つ目と4つ目に同じ	

III. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
①幼保小中教職員による「12年間の学びや育ちをつなげる」意識の向上 ・園や学校間の連携を強化し、市内全職員で子どもたちを12年間かけて育てていくという意識をつなげていく必要がある。	◇「高浜市がめざす子どもの姿」を明確にし、幼保小中教職員一人ひとりが「12年間の学びと育ちをつなげる」という意識をもてるような取組みを進める。 ◇幼稚園・保育園、小学校、中学校といった異校種間の「タテのつながり」を密にし、個々の子どもたちの視点に立ち、発達段階に応じた教育を行う。
②学校の想いと地域の想いのマッチング ・「学校の実情に応じた学校支援」という観点を大切に、学校の想いと地域の想いを調整する場が必要である。	◇園・学校、家庭、地域といった「ヨコのつながり」を密にし、「本音の語り合い」と「本物の信頼関係」で学校と地域をつなぎ、地域ぐるみで子どもたちの成長を見守り、手助けする“みんなの学校”をつくっていく。
③高浜小学校のあり方 ・築後54年を経過した高浜小学校について、老朽化対策が必要である。	◇「公共施設のあり方計画」を踏まえ、事業手法の検討など、整備準備を進める。

IV. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント